



地域へ活かす社会福祉法人の力

～地域貢献セミナー開催～

9月27日に「地域貢献セミナー」（鳥取県社会福祉施設経営者協議会共催）をzoomによるオンラインで開催しました。本セミナーは、各法人の地域における公益的な取組をさらに促進し、法人連携による支援のネットワークの拡充を図り、より充実した支援につなげることを目的として、今年度新たに実施しました。

講演では、兵庫県神戸市の社会福祉法人すいせい理事長で、ほっとかへんネットたるみ前代表の岸田耕二氏をお招きしました。岸田氏は鳥取県北栄町出身で、地元でのエピソードなどを交えてお話しいただき、参加されたみなさんも身近に感じられたようです。また、厚労省の社会福祉法人に関する各種検討会に参考人として出席されるなど、全国区で活躍されています。

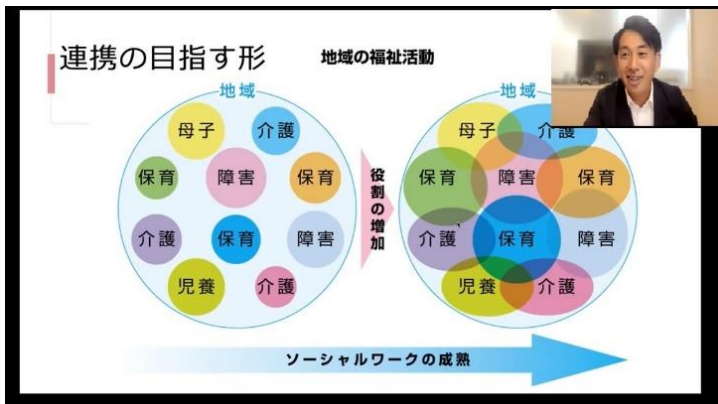
岸田氏からは、法人が連携して地域活動などを展開しているほっとかへんネットたるみでの取組みを通して、社会福祉法人としてあるべき姿や社会福祉法人が連携する意義やメリットについて、お話しいただきました。

実践報告では、鳥取こども学園の竹本智恵氏から、「おたべ食堂」（子ども食堂）の取組みについて、ご報告いただきました。法人が連携して取り組むことで職員同士の連携が図れたことや、地域のボランティアに運営に携わってもらうなど地域とのつながりが生まれたことなどを報告いただきました。

参加者からは「改めて社会福祉法人が地域に存在する意味、また地域の課題などに法人の強みや専門性をどう活かしていくのかを考えさせられた」「具体的な取組みを聞くことができ、今後自法人で取組み進めていくうえで大変参考になった」などの声がありました。

各法人ではすでに何らかの地域における公益的な取組みを実施されていることと思いますが、法人によっては日々の業務に追われなかなか地域に目を向けられなかったり、支援の必要性を感じつつ、実際に取組みを進めたくても進められない歯がゆさを感じられたりしているところもあるかと思います。

えんくるり事業では、地域での課題を共有し、支援につなげていくための場として、法人連絡会の開催などを伴走支援し、法人連携を促進しながら地域での困りごとや課題をきめ細かにキャッチし、支援につなげていく体制づくりをより一層進めていきます。



岸田氏による講演

地域貢献セミナーの録画映像を、**セミナーに参加いただいた法人限定**でYouTubeにて配信しています。
（※12月末日まで）
法人内での研修等には是非ご活用ください。詳しくは10月13日付けでお送りしましたメールをご確認ください。

社会福祉法人の力を集結 ～法人連絡会の取組み～

琴浦町

10月19日、琴浦町で今年度第一回の法人連絡会が開催され、今後の取組みの方向性について話し合われました。

琴浦町では平成30年から3法人が連携して子ども食堂「琴浦にっこにこ食堂」を実施していますが、新型コロナの影響で昨年度から休止となっています。

そこで、琴浦町社協から「にっこにこ食堂の取組みが進められない中、他にも法人としてできることがあるのではないかと、それを具体的に検討していく場が必要ではないか」との提起があり、今後各法人で直接地域住民と関わっている職員が集まる場を設定し、より具体的な地域でのニーズや困りごとなどを共有し、地域で必要とされる支援を検討していくこととなりました。

法人連絡会開催・設立状況

市町村	設立時期	令和3年度開催状況
鳥取市	令和2年度	
米子市	平成29年度	年度末に開催予定
境港市	平成28年度	11月開催予定
八頭町	今年度中(予定)	
琴浦町	平成29年度	10月開催

えんくるり事業の具体的な取組みを検討 ～第1回企画委員会～

参加法人の連携による具体的な支援や取組み方法など検討するため、本年度新たに企画委員会を設置しました。

第1回企画委員会では、えんくるり事業の今後の方向性や実際に相談・支援を行うなかで感じられていること、特に社協や施設法人が連携するうえでの課題などについて、委員のみなさんと共通認識を図りながら、協議を進めました。

その中から事業を進めていくうえで見えてきた課題などを整理しながら、今後具体的な取組みについて検討していきます。

【総合相談・支援機能強化】

見えてきた課題	背景
他機関や制度へのつなぎ方やつなぐための判断材料、手法を学ぶ機会の必要性	他分野の相談等に対して、どこまで踏み込んでアセスメントするのが難しい。深入りすると支援を期待されてしまい、対応が難しかった場合の利用者との関係が難しくなりかねない。
えんくるり事業の活用の仕方の周知	新任の相談員などは、えんくるり事業の仕組みや活用の仕方などについて理解を図る機会が少なく、実際に対応するときはどうえんくるり事業を活用していくか不安がある。
相談員のコーディネート役の必要性	施設の職員が日常業務もしながら、地域からの相談に踏み込んで対応することは負担が大きい。一緒に対応などを考えてくれるコーディネート役がいると負担が軽くなる。

【社会資源開発】

見えてきた課題	背景
法人連絡会の開催促進	地域にどのような課題があって、えんくるり事業でどのような支援をしているのかが見えていない法人があるのではないかと。そのため、えんくるり事業に参画している実感が持てていない可能性がある。各法人が地域課題を共有し、支援を検討する場として法人連絡会の開催が必要。